

## 桂宮宜仁親王殿下が来館されました

10月7日(土)の午後、「のじぎく兵庫国体」ご出席のため来県されていた桂宮様が、人と自然の博物館におこしになりました。ご到着時には、エントランスホール付近で県民のみなさんによる小旗の歓迎をお受けになり、県教育委員会からは吉本知之教育長がお出迎えに参列し、岩槻邦男館長の案内で館内をご観覧いただきました。

博物館には現在100万点あまりの資料が収蔵されていますが、3階「ナチュラリストの幻郷」コーナーでは、その中でも有数のコレクションである江田コレクション(昆虫)・小林コレクション(鳥類)などをご覧になりました。続いて、ひょうごの野生動物・北摂のクヌギと炭焼き・県花「のじぎく」と精力的にご覧になり、また、リニューアルしたばかりの県鳥コウノトリのコーナーでは、岩槻館長からの「日本産最後の剥製を当館で収蔵していることが最近の研究で確認されました」との説明に何度も大ききうなずいておられました。



アメリカマストドンをご覧になれる桂宮殿下  
写真提供：兵庫県広報課

1階の「生物の歴史」のコーナーでは、多数の化石をご覧になり、約1万年前にアメリカ大陸で絶滅したゾウの仲間アメリカマストドンの前での記念撮影では報道カメラマンが押すシャッター音が印象的でした。また「共生の森」のコーナーでは、高橋晃研究部長からの「なるべく本物を用いた展示をとの思いから、学術交流協定を結んでいるマレーシア国立サバ大学の協力を得て、本物のラフレシアなど入手し展示を考えました」との制作時の苦労話にも大ききうなずきながら熱心にご覧になっていました。

(館長補佐 西向寛昭)

## ひょうご海外技術研修員のご紹介



今年の8月1日からケニアからの研修生(ひょうご海外技術研修員受入事業)、Phoebe Awuor Awiti(フィービー・アワー・アウイティ)さんが、ひとはくで環境教育の手法を学んでいます。彼女はケニアの博物館「キスム・ミュージアム」で働いておられ、主に学校から訪れる子ども達に対する教育プログラムの企画、実践に関わっておられます。ケニアでは、ルオ族の伝統的生活様式を伝えるための疑似体験プログラムや、文化・自然科学分野に関するアクティビティを行う「Young Researcher」というプログラムの企画および実践を得意とされています。「環境教育が社会に必要不可欠なもの、読み・書き・そろばんのように、しつけの一部として扱われることを期待している」と、環境教育に対する強い期待や夢を持ちながらお仕事をされており、またひとはくでの研修も「ケニアでのプログラムは講義形式が中心で、子ども達も飽きてしまう。ここでは触ったり、音を感じたり、体験型の展示も多く、参考になる」と意欲を見せられています。11月5日の「ひとはくフェスティバル」では、ケニアの楽器を創るワークショップも企画されますので、ご来館の際は是非ご参加ください!

(自然・環境マテリアル研究部 嶽山洋志、自然・環境評価研究部 高野温子)

### 編集後記

今回は企画展「金の風林火山」の物産として、「風林火山」をキーワードとして書くべき昆虫の生態について知識を深める契機としていただければと思います。その企画展「自然史から見た兵庫の海」に関連して、「高嶺山出土層」についても探訪しました。

博物館にはさまざまな方が来られます。のじぎく兵庫国体にあわせて来館された桂宮親王殿下と研修のためケニアから来館中のPhoebeさんをご紹介しました。また、秋葉宮地に親王の御印に蓋されたコウヤマキについても探訪しました。

(生活学習推進室 松原清美)

ハーモニーのバックナンバーは博物館のホームページ  
[http://hitohaku.jp/publications\\_index.html](http://hitohaku.jp/publications_index.html)  
でご覧いただけます。

### 人と自然の博物館ニュース 「ハーモニー」No. 55

平成18年11月2日  
兵庫県立人と自然の博物館  
〒669-1548 三田市弥生が丘6丁目  
TEL(079)559-2001(代表)  
FAX(079)559-2007

博物館ではインターネット上でも情報を提供しています。  
URL <http://hitohaku.jp/>